薄緑娘白波

第五篇

假名垣魯文作
歌川豊国画
青盛堂寿梓

薄緑娘
白波第
五篇上

呂文作 芳虎画

己の事 抄棒
吉盛
文彦

五編上
己巳の美
五編下
假名垣魯文作
孟高斎国輝
書盛堂梓

浅黄帷子黒小袖。ろくゝ月夜に米の飯。慶らぬ物ふたとゝ。
袖そゞ羽織細袴。腎ふ鉄砲南京米。とうゝ丑ゞ変る世の流
行妾囲女けい芸偶偶。夜毀地獄の持ち法ほくのう。羅沙
綿くろうろくゝ。蒼田碧海人家々ゝ。新規ふ
開く港の繁昌。異るうゝ世にかわるゝ年ゝ歳ゝ合巻の
趣向ふ似うめ義賊博本据い水滸の陳文漢字を。
和らぐ皇國の女文字。筆のかさ松ゝりの一ど硯の海法
白波と。摽題ふ名ふぞ立田山。麓の壁ふつゝて五編目上下六
里の嶺の場まで倦うゝ多いぞの御高評扨ん求を冀と白ス

花街歳時記 著述の間

干時明治己の春

假名垣魯文戯記

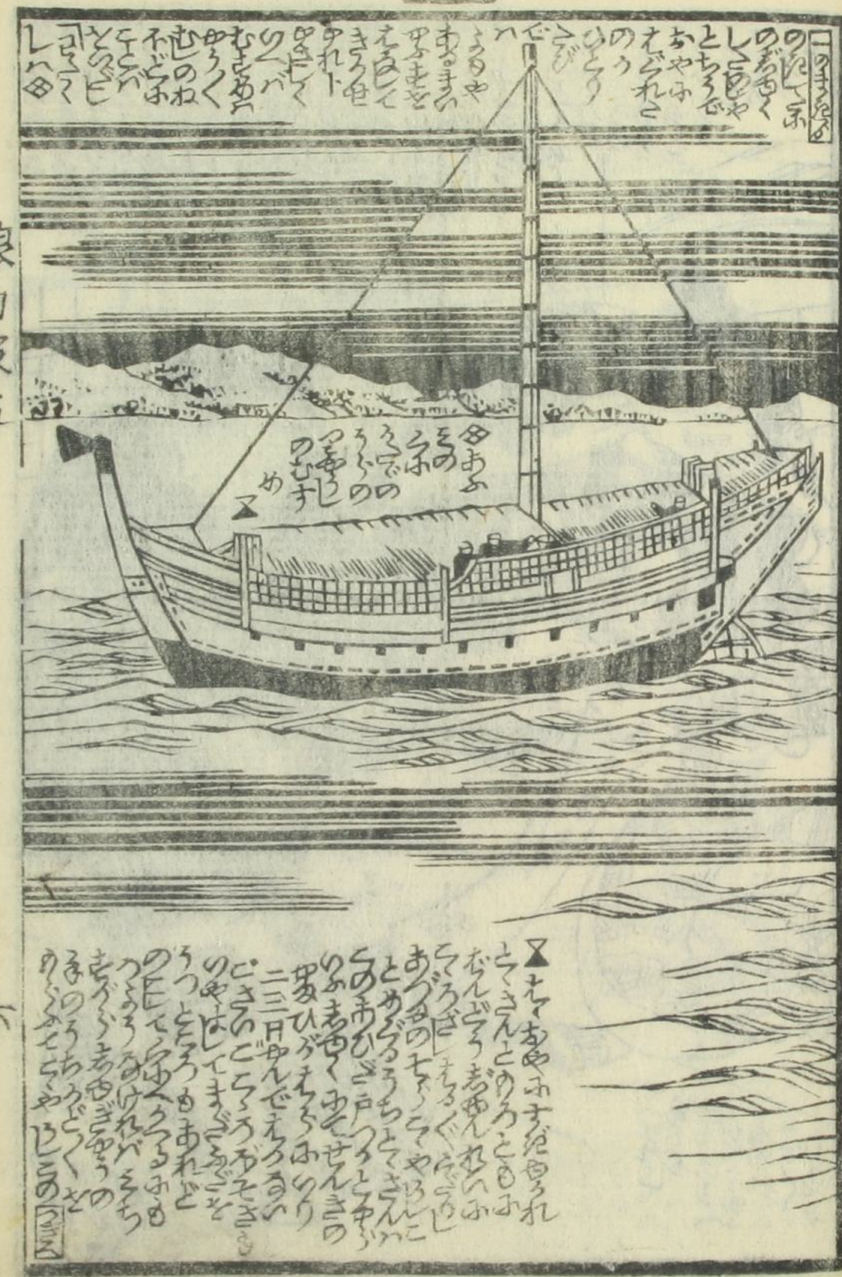
大磯の亡八
松葉屋三蔵
実は犬目の駄六

打とる屋うば
勝見仙太郎
石ごべ天小僧
菊之介ト名
菊川左門
妻菖浦
仙太郎が姉なり

賊婦花嶋
波女ア阿雲
旅少女
於袖

女郎沢庵
酒屋
田舎とれのうへれどもうおもどしのこと
このむすめともあやふさのうちふひろのれ
あくまうこうこと
こそふさまれば
さしらの

東海道



関
帆
左

天

姫剣渡五

姫白波五

松

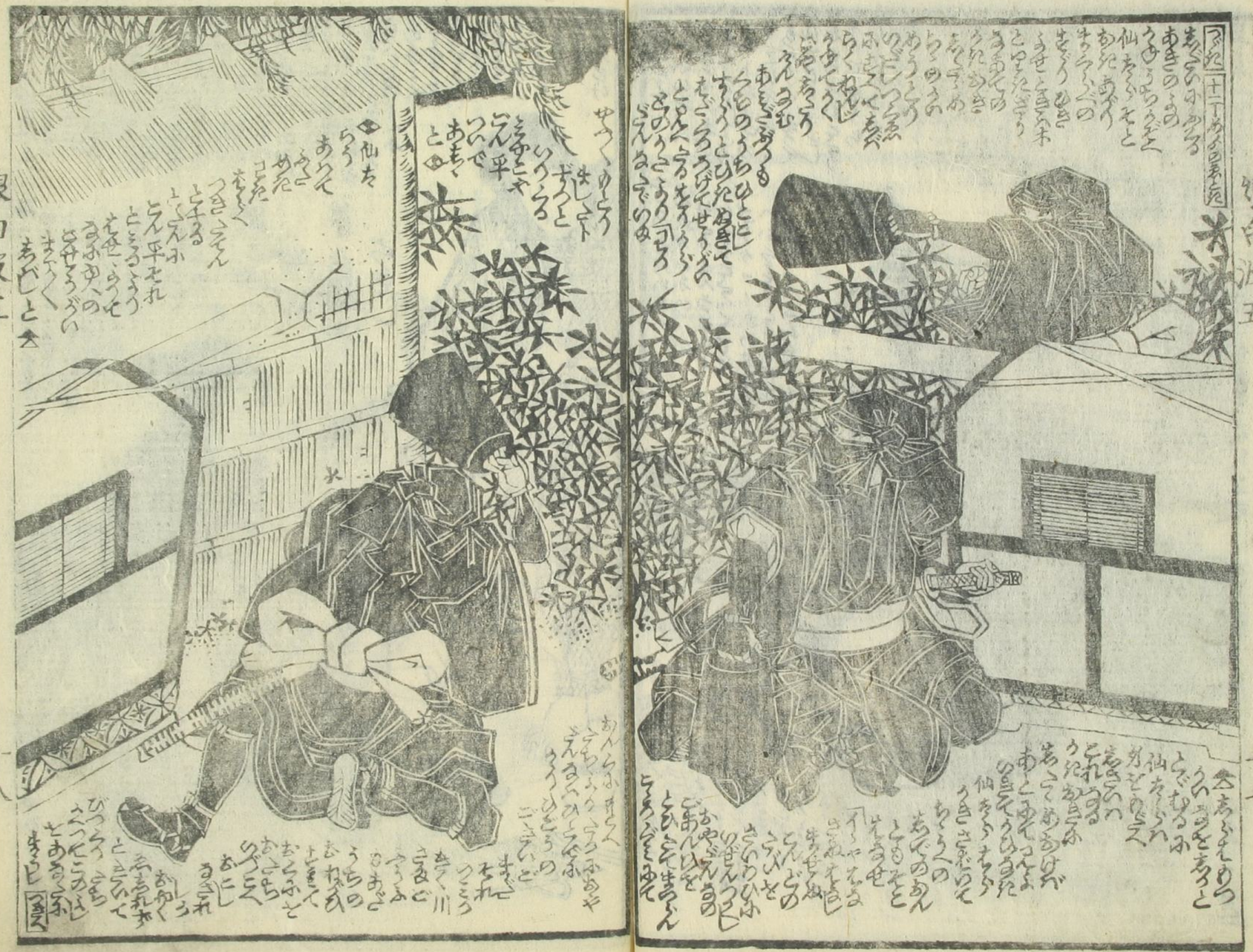
魯文作
芳虎画
天

仙
人

仙
力

煙

此所
七十目
物語の
條と見
彼処の
曲者
本名
繪
組
造



第六編
繪解
仙
松
力

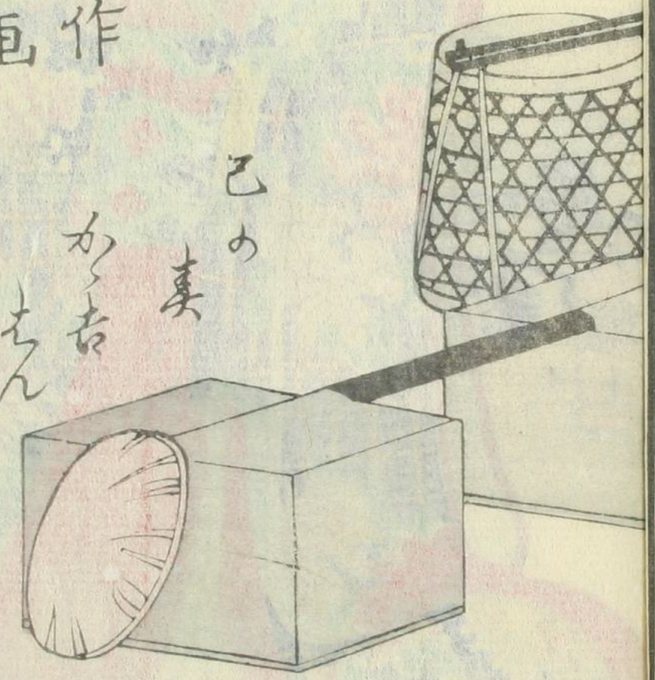
魯文作　廿乃虎画

薄緑娘白波茅六篇上

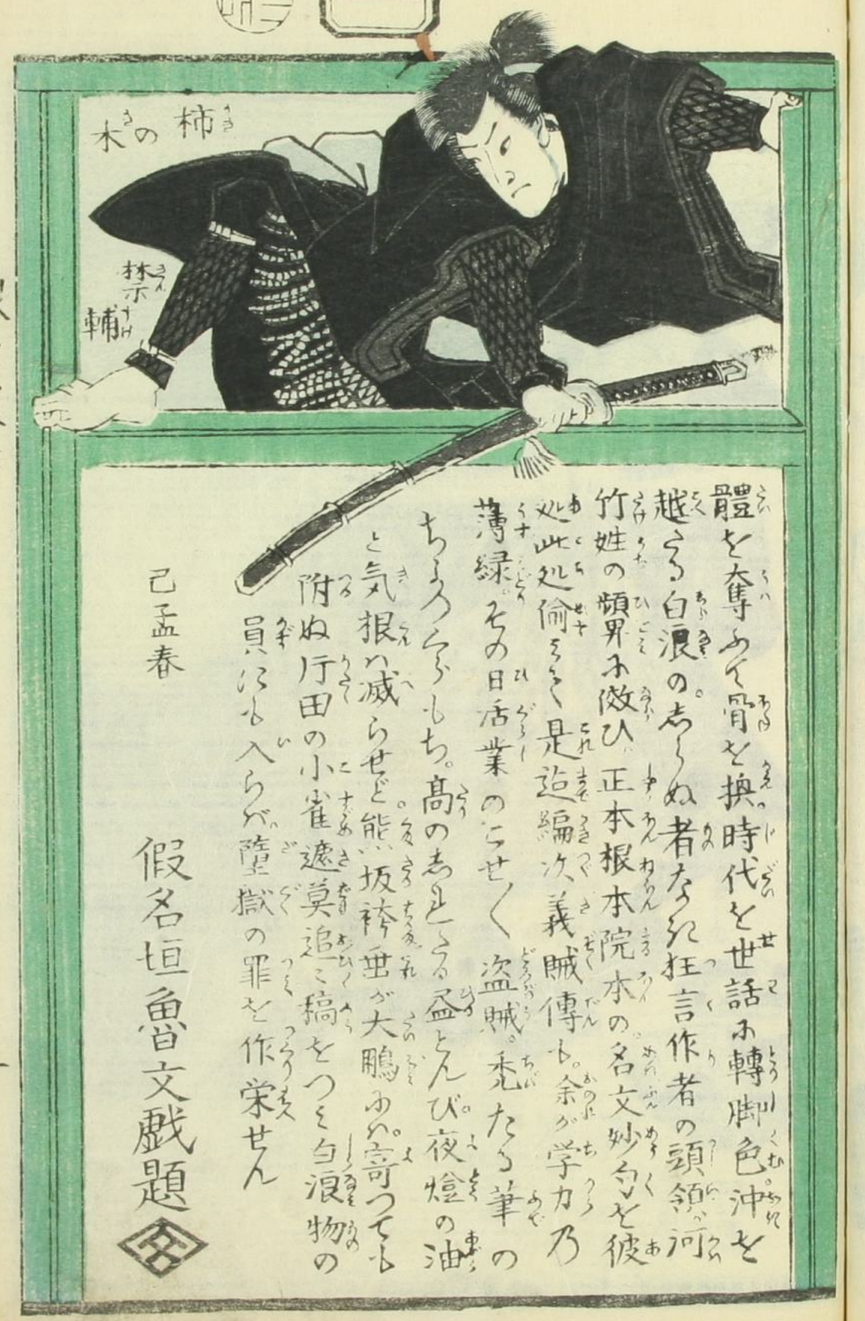
己の妻

假名垣作

孟齋画



六編上
六篇下



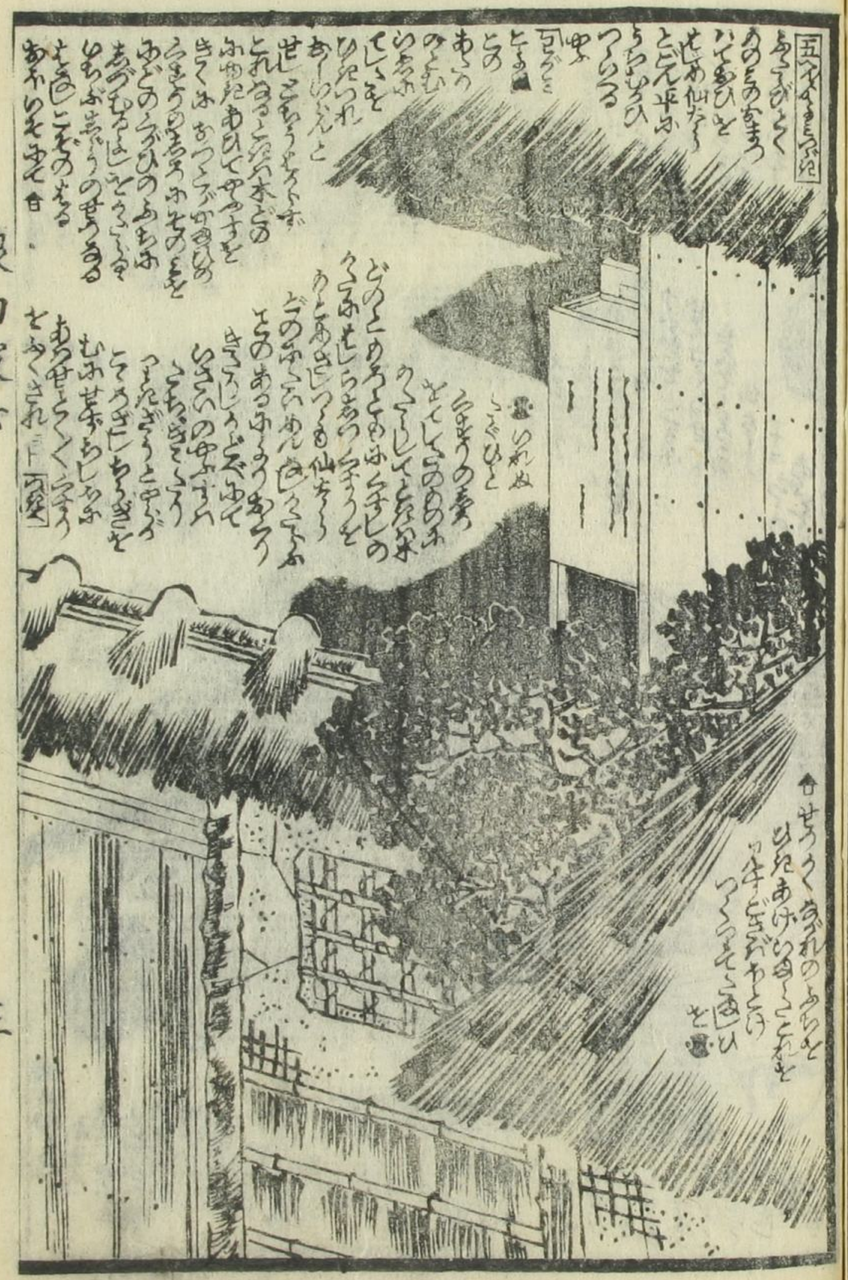
體を奪あて骨を換時代を世話ふ轉御色沖を越る白浪のちゝぬ者なれ狂言作者の頭領河竹姓の頓界ふ倣ひ正本根本院本の名文妙句を彼処此処倫ちゝく是迫編次義賊傳ふ余が学力乃薄緑その日活業のこせく盗賊乱たる筆のちゝゝもち高のあ上る盃とんび夜燈の油と気根い減らせど能坂袴虫が大鵬ふの寄つてふ附ぬ庁田の小雀遠莫迫こ稿をつゝ白浪物の員ふふ入らゞ墮獄の罪を作栄せん

己孟春

假名垣魯文戯題

佐々木
家の
執權
亞毬
伊賀之助
常角
北畠家の
老女蜘手
實ハ花咲
老波女
阿雲
女盗賊
物見の
阿松

滿頼の奥方
緑の前
釣鐘
權六

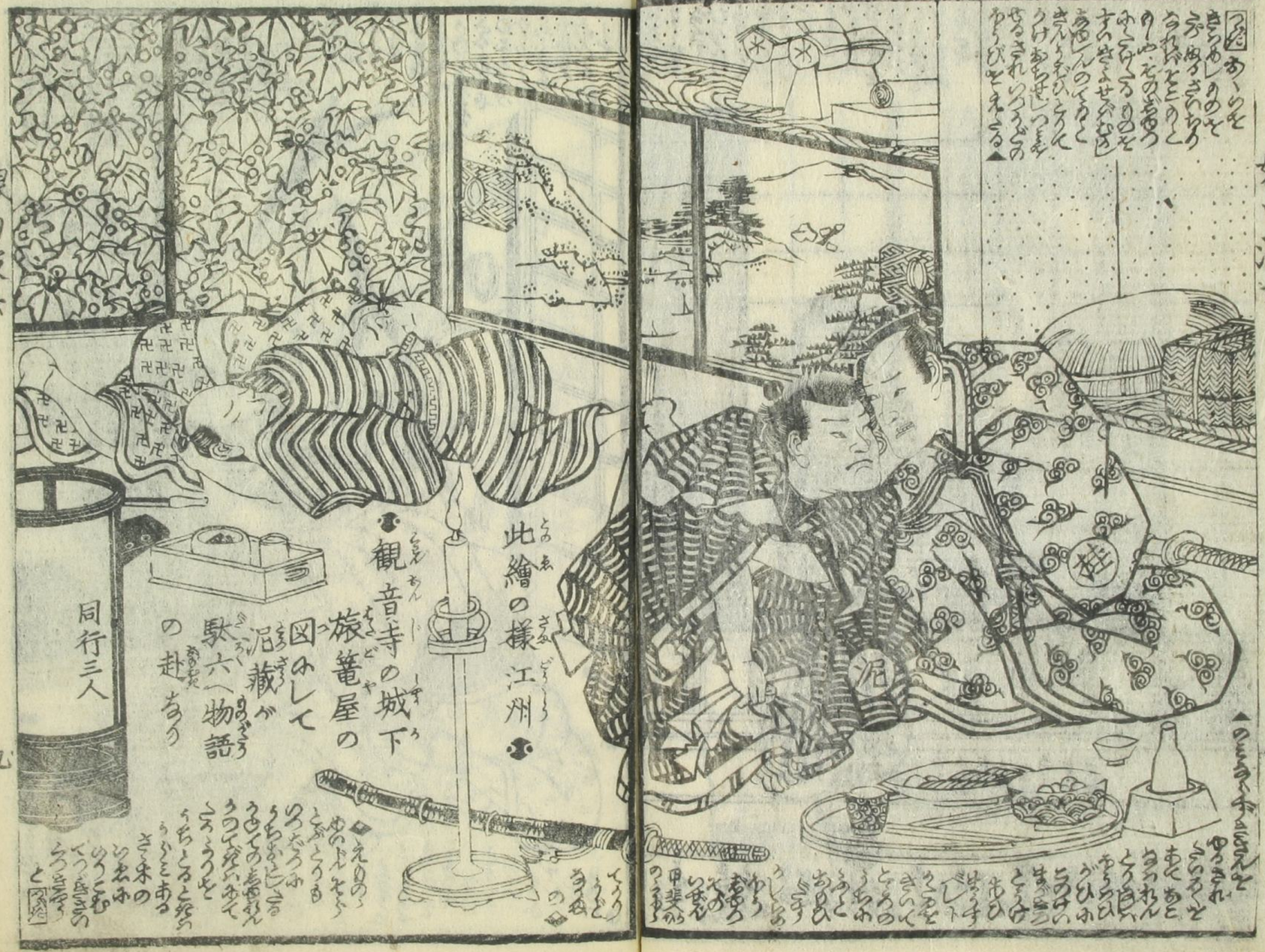


女
樵

仙
海

仙

龍


泥
同行三人
此繪の様江州
観音寺の城下
旅籠屋の
図のして
泥藏が
駄六物語
の赴き

魯文作
芳虎画

天
杉
亀松
琴丁二
袖
挂

つき
あやめぐろくされ
おさんぐさ〜ふあたこと
あやくぢゃ〜すぐうとめて
うしろげさふ小さ
がひえ〜をけつられバ

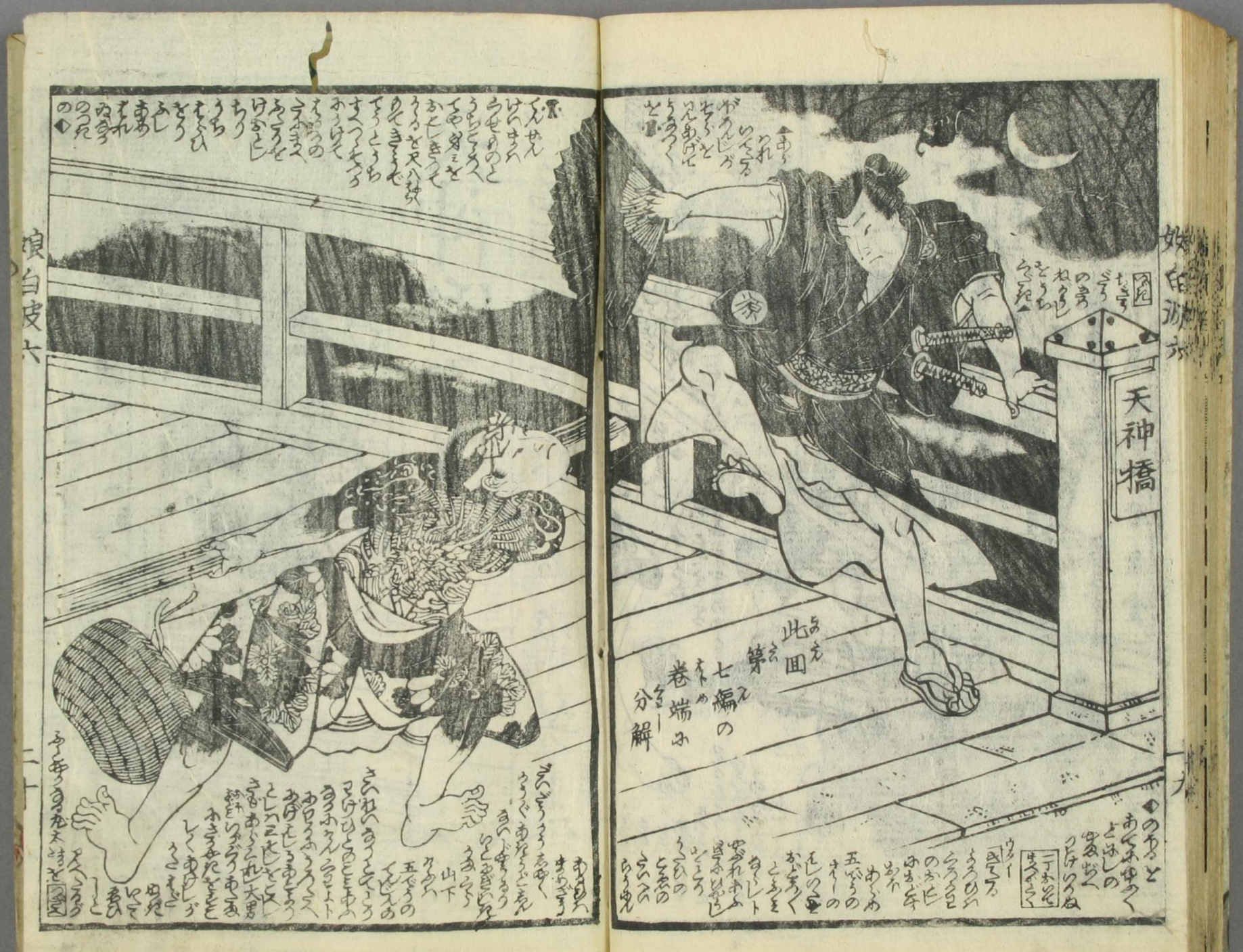
ウントのつけは
きぶうの
えらこと
あめのうそを
ろう

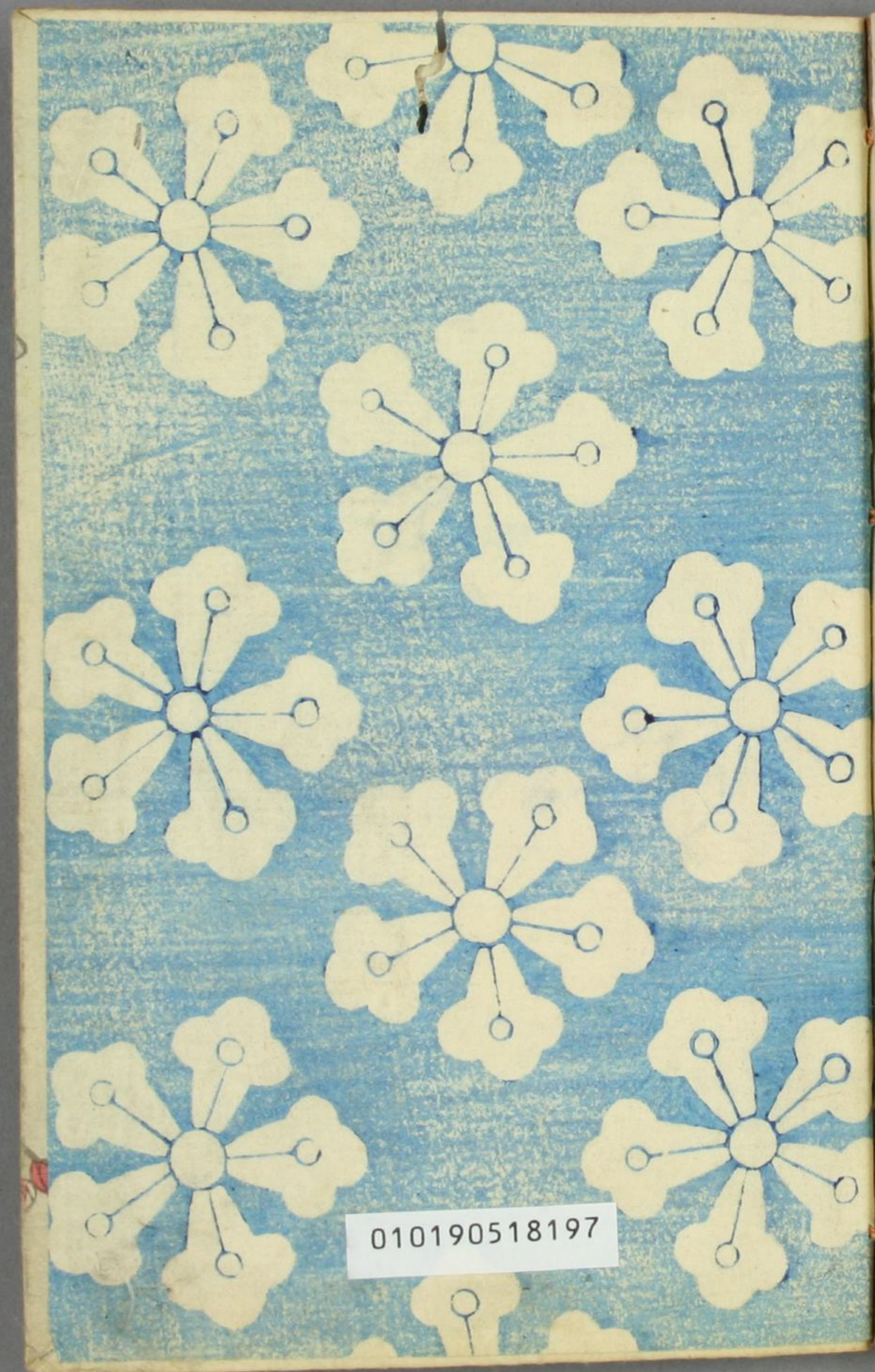
五條社
御菓子司

甘泉堂元舗
鎌倉
山下
五條
天神
境内
繁栄
の圖

閑梓
娘白波
六編
神橋
荷

上
竹亀百荷
一庭様
若者中
山下
菓子
甘泉堂
野山下
御菓子
御菓子
泉
上野
御菓子
甘泉堂
甘泉堂
下
堂

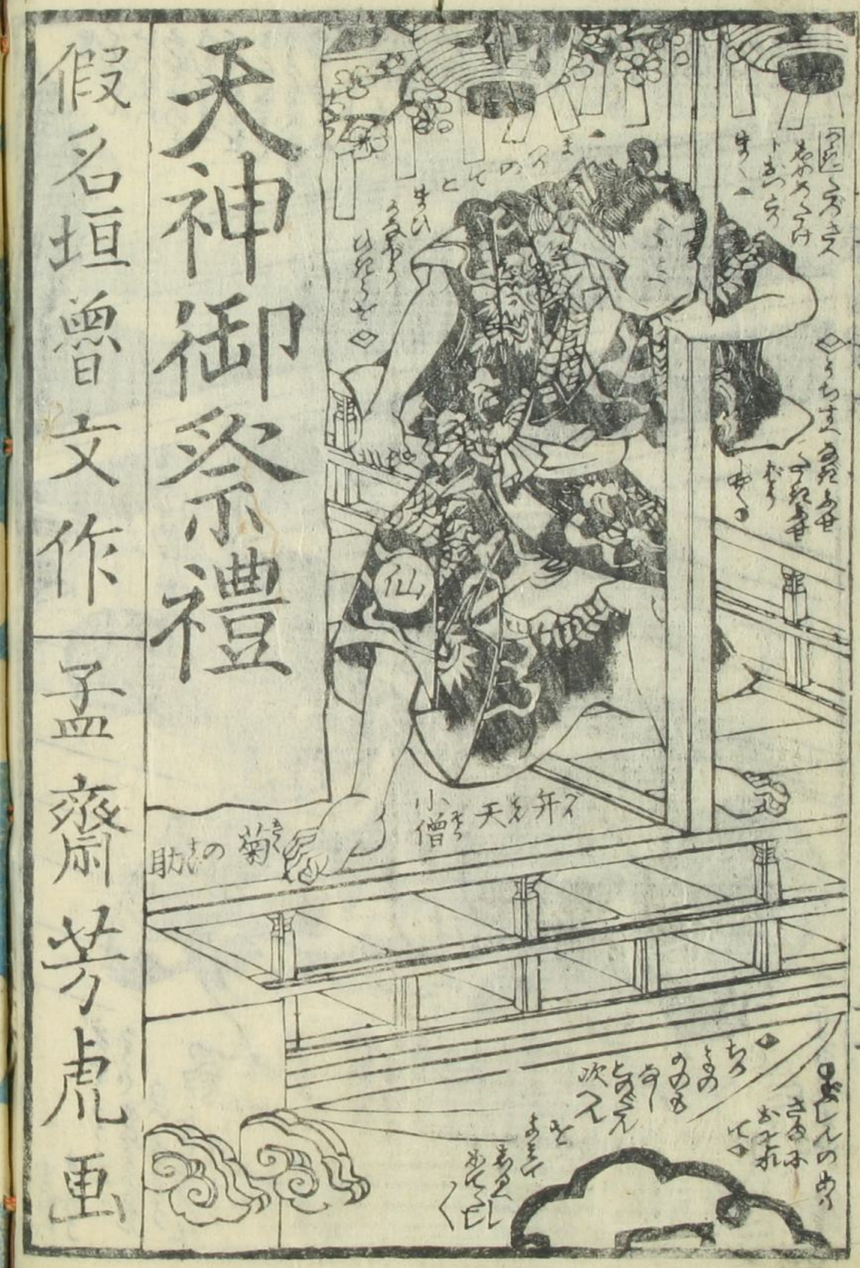

天神橋
此回第七編の巻端ハ分解


010190518197

天神御祭禮

假名垣魯文作

孟齋芳虎画



薄緑
娘白
波筍
六篇
曾文作
芳虎画
青盛
堂版
己の
春